

活動報告書

〈この活動に参加を決めた理由〉

今日、ものすごいスピードで社会が変化する一方で、気の遠くなるような長い年月が経っても変わらないものがある。世の中には人類によって進化させられたものと守られ続けたものが存在する。その守られ続けたものが世界遺産であり、そして今後も守り続けなければならないものである。過去も未来も含めた世界遺産が本当の意味での人類の歴史であると思つた。

春に、カンボジアのアンコールワットに行ったときに遺跡に感動したのと同じくらい遺跡周辺にゴミが落ちているのにショックを受けた。そのとき、次に海外に行くときには何か活動をしたと思つた。

また、この活動の参加の決め手となつたのは宗教色の強いエジプトを見てみて、現地の人にさまざまな話を聞いてみたいと思つたからだ。さらに、孤児院の訪問で子供たちとふれあいたいと感じたからである。

〈この活動に参加して感じたこと〉

移動中のバスの中から街を流れている川の川沿いにたくさんのゴミが落ちているのが見えた。実際の清掃する遺跡周辺は想像以上にゴミが落ちていた。観光地であるので観光客が多いところでは、それなりに清掃がされていたが少し外れたところなどは全然だった。日差しも強く、熱中症にも注意しながらやったためそんなに長くはできなかった私たち全員で全部を拾うには相当な時間がかかってしまいそうな量だった。

清掃活動をして思うのが、ゴミを減らし、なくしたいなら「拾う」ことも大事だが、それよりも先に現地の人さらには観光客の「捨てる」人間の一人ひとりの意識をまず一掃しなければいけないと感じた。

さらに、私たちは日本人として育ってきたから、なんでも日本のような環境が当たり前だと思いがちです。しかし、このように日本を飛び出して日本と違う生活文化に触れると、日本の当たり前は決して世界の当たり前ではないのだと、身にしみて感じます。いかに自分が育つた環境が恵まれていたのかを考えさせられます。そして、この活動を通して私が得たものは広い視野の獲得だと思ふ。世界を見ることは新たな刺激や感動だけではなく、日本から世界へ視野を広げてくれたように思ふ。